

地図データの詳細情報

(平成29年3月現在)

データ名称		データ提供元	データ概要	前提条件等	表示範囲
旧版地図	明治(M23~M43)	国土地理院 旧版地図(2万分1地形図、2万5千分1地形図)を使用	「旧版地図」は、明治時代から現代までに国土地理院が作成した地形図です。		愛知県全域
	大正(T5~T9)				
	昭和初期(S2~S29)				
	昭和中期(S30~S48)				
	昭和後期(S50年~S63)				
	平成(H10~H22)				
溜池・集落・旧河道	明治(M23~M43)	国土地理院 旧版地図(2万5千分1地形図)をもとに作成	「溜池・集落・旧河道」は、明治時代に溜池、集落及び河道であった場所が分かる地形図です。		愛知県全域
陰影段彩図	濃尾平野(5m)	国土地理院 基盤地図情報 数値標高モデル(5mメッシュ、10mメッシュ)をもとに作成	「陰影段彩図」は、地形を立体的に表現するため、標高ごとに異なる色と陰影を付けた地形図です。		濃尾平野
	愛知県全域(10m)				愛知県全域
都市計画基本図	名古屋市(H22)	名古屋市 H23.3 名古屋都市計画基本図を使用	「都市計画基本図」は、航空写真をもとに、地形、家屋及び道路等の状況を図化した地形図です。		名古屋市
	名古屋市(H27)	名古屋市 H29.3 名古屋都市計画基本図を使用			
航空写真	名古屋市(H22)	名古屋市 H23.3 名古屋都市計画写真地図を使用			名古屋市
	名古屋市(H27)	名古屋市 H29.3 名古屋都市計画写真地図を使用			
土地利用現況図	細分メッシュ(H26)	国土交通省 国土数値情報/H26 都市地域土地利用細分メッシュデータを使用	「土地利用現況図」は、100mメッシュ毎に土地利用の状況(田、その他の農用地、森林、荒地、高層建物、工場、低層建物、低層建物(密集地)、道路、鉄道、公共施設等用地、空地、公園・緑地、河川地及び湖沼、海浜、海水域、ゴルフ場)を判別した地図です。		愛知県全域
国勢調査データ	人口密度(H22)	総務省 e-Stat/H22 国勢調査をもとに作成	「国勢調査データ」は、町丁目毎に人口密度と高齢化率を集計したものです。		愛知県全域
	高齢化率(H22)				
将来推計人口	人口密度(H22)	国土交通省 国土数値情報/H26 将来推計人口メッシュ(国政局推計)を使用	「将来推計人口」は、H22年の国勢調査等に基づき、H62(2050)年の人口密度及び高齢者数を1kmメッシュ毎に試算したものです。		愛知県全域
	人口密度(H62)				
	人口増減(H62/H22比)				
	高齢者数増減(H62/H22比)				
南海トラフ被害想定(国)	震度(基本ケース)	被害想定:内閣府 H24.8 南海トラフ巨大地震の被害想定(第一次報告)を使用  背景地図:国土地理院 旧版地図(2万5千分1地形図)を使用	「南海トラフ被害想定(国)」は、各地で想定される震度や液化化可能性について、1kmメッシュ毎に予測したものです。	地震動は、内閣府で検討された地震動5ケースのうち「基本ケース(基本)」と、揺れによる被害が最大となると想定される「陸側ケース(最大)」を想定しています。	愛知県全域
	震度(最大クラス)				
	液化化(基本ケース)				
	液化化(最大クラス)				

データ名称		データ提供元	データ概要	前提条件等	表示範囲
南海トラフ被害想定 (市)	震度(既往)	被害想定:名古屋市 H26.2 南海トラフ巨大地震の被害想定を使用  背景地図:名古屋市 H23.3 名古屋都市計画基本図を使用	「南海トラフ被害想定(市) 震度・液状化」は、各地で想定される震度や液状化可能性について、約50mメッシュ毎に予測したものです。  「南海トラフ被害想定(市) 津波浸水」は、満潮時に各地で想定される津波の浸水範囲について、約5mメッシュ毎に計算したものです。	南海トラフにおいて、おおむね100～200年の間隔で繰り返し発生する地震として「過去の地震を考慮した最大クラス(既往)」と、千年に一度あるいはそれよりもっと発生確率が低い、仮に発生すれば甚大な被害をもたらす地震として「あらゆる可能性を考慮した最大クラス(最大)」の2つの地震を想定しています。	名古屋市
	震度(最大)				
	液状化(既往)				
	液状化(最大)				
	津波浸水(既往)				
	津波浸水(最大)				
土砂災害データ	土石流(特別警戒・警戒)	被害想定:愛知県 H29.3 砂防GISデータを使用  背景地図:国土地理院 旧版地図(2万5千分1地形図)を使用	「土砂災害データ」は、土砂災害(特別)警戒区域と土砂災害危険箇所を表示したものです。		愛知県全域
	急傾斜(特別警戒・警戒)				
	地すべり(特別警戒・警戒)				
	土石流危険区域				
	急傾斜地崩壊危険箇所等				
	地すべり危険箇所				
地震災害危険度 評価図	建物倒壊の危険性(既往)	被害想定:名古屋市 H27.1 震災に強いまちづくり方針/ 地震災害危険度評価図を使用  背景地図:名古屋市 H23.3 名古屋都市計画基本図をもとに作成	「建物倒壊の危険性」は、建物構造及び建築年と、被害想定において地盤状況を考慮して計算された震度、液状化可能性により、建物が全壊する割合を街区毎に評価したものです。  「道路閉塞の危険性」は、被害想定をもとに、液状化を考慮し計算された建物全壊率から、沿道の各建物高さや道路の幅員を考慮し、道路が閉塞する確率(歩行避難通行が確保される幅員(2m)が残されない確率)を評価したものです。  「火災延焼の危険性」は、建物構造・規模に応じて、各建物が燃えた際の延焼範囲を設定し、延焼範囲の重なる建物群(延焼クラスター)内の建物棟数を評価したものです。	建物構造及び建築年等は、H22年度都市計画基本図及びH23年度建物用途別現況調査を基に判断しています。  被害想定は、H26.2に名古屋市が公表した「南海トラフ巨大地震の被害想定」を使用しています。  地震災害危険度評価にあたっては、南海トラフにおいて、おおむね100～200年の間隔で繰り返し発生する地震として「過去の地震を考慮した最大クラス(既往)」と、千年に一度あるいはそれよりもっと発生確率が低い、仮に発生すれば甚大な被害をもたらす地震として「あらゆる可能性を考慮した最大クラス(最大)」の2つの地震を想定しています。	名古屋市
	建物倒壊の危険性(最大)				
	道路閉塞の危険性(既往)				
	道路閉塞の危険性(最大)				
	火災延焼の危険性				
	指定避難所・避難場所				
今昔写真		名古屋都市センター所蔵資料を使用	「今昔写真」は、その地点の過去(昭和初期)と現在(平成)の対比写真です。24地点の写真を閲覧できます。		名古屋市
尾張名所図会		名古屋都市センター所蔵資料を使用	江戸末期から明治初期の名古屋のまちの様子を描いた地誌で、原本の一部を加工・着色したものです。46地点の絵図を閲覧できます。		名古屋市
伊勢湾台風写真		名古屋都市センター所蔵資料を使用	「伊勢湾台風写真」は、当時の被害写真です。98地点(計484枚)の写真を閲覧できます。		名古屋市